

SHEET27 公助の限界

2004年の台風23号で円山川が決壊し、水浸しになった市街地の住宅-同年10月21日、豊岡市内

治山・治水のための施設整備には膨大な年月がかかる

整備終了後も、想定を超える自然災害に対し、住民の生命や財産を守るには限界がある

施設整備に必要な年数(国土交通省「ひょうご治山・治水防災実施計画案」より)

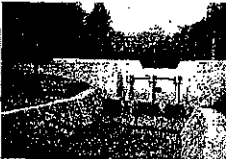
森林対策(災害に強い森づくり)

5年 ※継続的な整備が必要
2006～10年度、防災面での機能強化が必要な4,700林について、土砂流出を防ぐ簡易な「土留め工」の設置など森林整備を実施(森林の公益的な機能を維持保全するため、簡易などの整備は継続が必要)



土砂災害対策

対応すべき土砂災害危険箇所数22508カ所に対し、現在のペースで整備できるのは年間60カ所



約280年

河川氾濫対策(河川改修)

約150年

県管理の河川延長3304kmのうち、48%の1584kmは10年に1度の確率で発生する雨量への対策が未整備。現在は3年間で1カ所整備するペース



内水対策(下水道)

約80年

過去に浸水被害があった地区、その恐れがある地区などの「社会資本整備重点計画対象面積」は63756ha。うち、38.5%の24521haは雨水排水路、排水ポンプ場などが未整備だが、現在は2年に1%整備するペース



ため池対策

11年

受益面積0.5%以上の老朽化した「警戒ため池」1775カ所あり。2004年度までに1292カ所を改修済み。2005～15年度に583カ所を改修

※継続的な整備が必要
(2016年度以降も老朽化した「警戒ため池」を指定し、整備する必要がある)

高潮対策

約30年

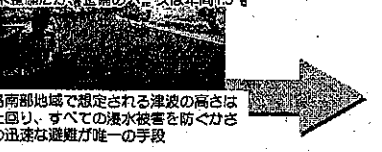
県管理の海岸堤防、護岸284kmのうち改良や補強が必要な延長は56.7%。うち75.3%の42.7%が未整備(対策整備のペースは年間1.5%)

※継続的な整備が必要
(既存施設の老朽化で、機能維持のための対策は継続が必要)

津波対策

施設整備だけでは限界

南海地震に対し、特に淡路島南部地域で想定される津波の高さは現在の堤防の高さを大きく上回り、すべての浸水被害を防ぐかき上げには限界がある。住民の迅速な避難が唯一の手段



川の防災の限界

海の防災の限界

計画案はインターネット上で閲覧できる。
アドレスは<http://web.pref.hyogo.jp/glyutsukikaku/glyzutop.htm>

グラフィックス 栗田 年男



風水害対策は長期必至

治山・治水 迅速避難と互助重要

今年も梅雨の季節がやって来ると、兵庫県は風水害の多発地。県が、県民への呼びかけと、兵庫県の計画案等、04年の「ひょうご治山・治水防災実施計画案」に引き継がれた。山から川、海までの流域、新たな補修が必要箇所が出てくる。整備しても、施設の想定を超える被害もあつて、

今年も梅雨の季節がやって来ると、兵庫県は風水害の多発地。県が、県民への呼びかけと、兵庫県の計画案等、04年の「ひょうご治山・治水防災実施計画案」に引き継がれた。山から川、海までの流域、新たな補修が必要箇所が出てくる。整備しても、施設の想定を超える被害もあつて、

今年も梅雨の季節がやって来ると、兵庫県は風水害の多発地。県が、県民への呼びかけと、兵庫県の計画案等、04年の「ひょうご治山・治水防災実施計画案」に引き継がれた。山から川、海までの流域、新たな補修が必要箇所が出てくる。整備しても、施設の想定を超える被害もあつて、

今年も梅雨の季節がやって来ると、兵庫県は風水害の多発地。県が、県民への呼びかけと、兵庫県の計画案等、04年の「ひょうご治山・治水防災実施計画案」に引き継がれた。山から川、海までの流域、新たな補修が必要箇所が出てくる。整備しても、施設の想定を超える被害もあつて、

今年も梅雨の季節がやって来ると、兵庫県は風水害の多発地。県が、県民への呼びかけと、兵庫県の計画案等、04年の「ひょうご治山・治水防災実施計画案」に引き継がれた。山から川、海までの流域、新たな補修が必要箇所が出てくる。整備しても、施設の想定を超える被害もあつて、

このほか、危険区域での土砂利用の規制や誘導も進める。計画案は県技術企画課のホームページ(左欄の下部参照)から閲覧できる。今年(2006年)5月21日、市民の意見を募集した上で決定する。また、流域面積の大きい県内の四十三河川については、流域でのハード・ソフト対策を示す「アクションプラン」を7年度までに策定する。同課は「まず現状を知って、その上で対策を講ずる。計画を議論のきっかけとして、危機感を持った行動につなげてほしい」と話す。